

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 73

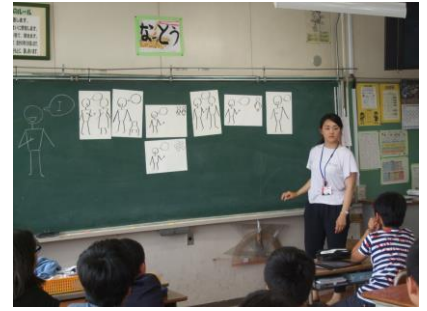
学校名・団体名	岩倉市英語教育推進協議会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	英語が使える児童・生徒の育成 —GDMの手法を用いて—
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>岩倉市の小中学校が連携をし、英語教育に英語教授法の一つである GDM (Graded Direct Method) を導入することで、小学校の外国語活動の段階から、学習者は目の前で起こることをみて具体物や自分の動き英語を結びつけることで感覚的に英語を身につけることができる。また、その過程で、思考力・判断力・内発的な学習意欲を身につけることもできる。また、指導者も学習者の状況を即時判断しながら臨機応変な対応をしなければならぬため、指導者の力量向上も図れる。</p>	

研究内容

(1)GDM の特色と本活動のねらい

GDM とは、Graded Direct Method（段階的直接法）の略称で、段階を追って（日本語を使わず英語のみで）直接英語で教える方法である。入門期の外国語を教えるために、BASIC English にもとづいて、ハーバード大学で 1940 年代から 60 年代にかけて開発された教授法である。母国語による説明なしで、学習者自らが状況と表現の関係を発見していくことが GDM の特色である。そのため、指導者には GDM 特有の指導技術の習得が要求される。

本活動はこれらの指導のバックボーンとなる理論の研修や指導法を実践的に学ぶワークショップ、実際の授業の継続指導からなる。これらを通して GDM の手法を身のつけた教員をより多く育成することにより、教科としての小学校英語が完全実施される時期までに小中連携した指導体制の確立を目指すことが本活動のねらいである。



【GDM の様子】

(2)GDM の理解と授業力の向上

①セミナー

愛知文教大学講師の松浦克己氏を講師として招聘し、市内の小中学校教諭を対象にセミナーを開催した。内容は「GDM の理論に関する研修」と「GDM 教授法の実践講習」である。この 2 つを、段階に応じて 2 回に分けて研修を行った。初回は GDM を体験しながら良さを体感し、実際の指導法の基本を学ぶことができた。

2 回目は、実際に授業実践を一定期間行ってから実施したため、実践から生じた質問が沢山寄せられた。また、授業実践例の報告も交えながら、より深く学ぶことができた。



【セミナーの様子】

②日常の授業における指導

GDM の授業は大きく 3 つで構成される。最初に実物を使いながら学習するライブを行う。ここでは、できるだけ具体的な場面を何度も英語で表現し、その意味するところ、使い方を子供たちが理解するように導く。次はその状況を表した簡単な場面会について英語で表現することで理解したことの活用を図る。最後はワークシートを使って個人で復習と書く練習をして定着を図る。こうした構成で授業を行うには、GDM 特有の指導技術の習得が必修である。そのため授業アドバイザーとして愛知文教大学の松浦克己氏を年間 2 5 回、招聘して、実際の授業を参観いただき、事後指導および次時の事前指導を行っていただいた。また、その際、優れた授業の動画や場面絵、ワークシートなどの教材作成等についても指導・助言を得た。

(3)小中連携による実践

①先行実施校(岩倉中学校)の授業公開

年間を通して、常時先行実施校での授業を公開し、広く GDM での授業を理解に努めた。授業後には授業者への質問も沢山だされた。

②先行実施校(岩倉中学校)職員による小学校への出前授業の実施

岩倉中学校で取り入れている GDM の授業を体験してもらうために、校区内の全ての小学校 6 年生を対象に中学 1 年生で最初に扱う「主語 I/You/He/She/It/They」の出前授業を行った。主語のみを扱う授業だったが、1 時間集中して取り組むことができた。日本語を与えなくても場面を見たり、言ったりすることで文字の意味を理解することができた。今後、何を表現しているのかを意識した外国語活動を継続することでスムーズに中学校の学習を行うことができるようになっていくと感じた。



【先進実施校の授業公開】

【児童の感想】

※誰としゃべっているかをポイントにして人や物の言い方を学べて良かったです。自分の立場を理解して答えることが大切だと思いました。

※You は遠くても You 行と言う。目が合っていないと You とは言わずに He と She と言った。また、人でも物でも 2 つ以上あれば They だと分かった。



【小学校への出前授業】

(4)成果と課題

GDM を取り入れることで子ども達の学びは受動から能動へと変容した。常に気づき、考え、判断しようとする姿勢を見ることができた。学力診断テストにもその成果は表れてきているが GDM との因果関係の分析については今後の課題である。また、今回の活動により、教員の GDM への理解が深まると共に、指導法の習熟、教材等の開発等を促進することができた。さらに、GDM で培った指導技術は教師としての指導力そのものに深みを与えることとなり、学校ひいては市全体の教育力向上につながったといえる。しかし、GDM の指導方法は奥が深く習得には時間と経験が必要となる。今後も本活動を継続していくことが重要となってくる。

